

海事技術マネジメント 学科の学生における 海事志向性について

○神戸大学大学院海事科学研究科
神戸大学海事科学部（学部学生）
神戸大学大学院海事科学研究科

臼井英夫
喜多保成
世良 亘

背景

外航日本人船員の減少

2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
2625人	2650人	2545人	2370人	2312人	2369人	2408人

注) 人数には、予備船員を含む。

出典：国土交通省海事局，平成24年版海事レポート，平成24年7月16日

日本政府の施策

- 海洋基本法の制定
- 外航日本人船員（海技者）確保・育成スキームの導入
- 新3級制度の導入
- トン数標準税制の導入



外航日本人船員（海技者）の確保

海事科学部の変遷

2003年10月：神戸商船大学と神戸大学が統合
海事科学部の設置

海事技術マネジメント学課程 90名

海上輸送システム学課程 50名

マリンエンジニアリング課程 60名

2004年4月：国立大学法人神戸大学となる

2006年4月：AO入試を開始

海事技術マネジメント学課程 30名

海上輸送システム学課程 5名

マリンエンジニアリング課程 6名

2008年4月：3 課程を 3 学科に改組

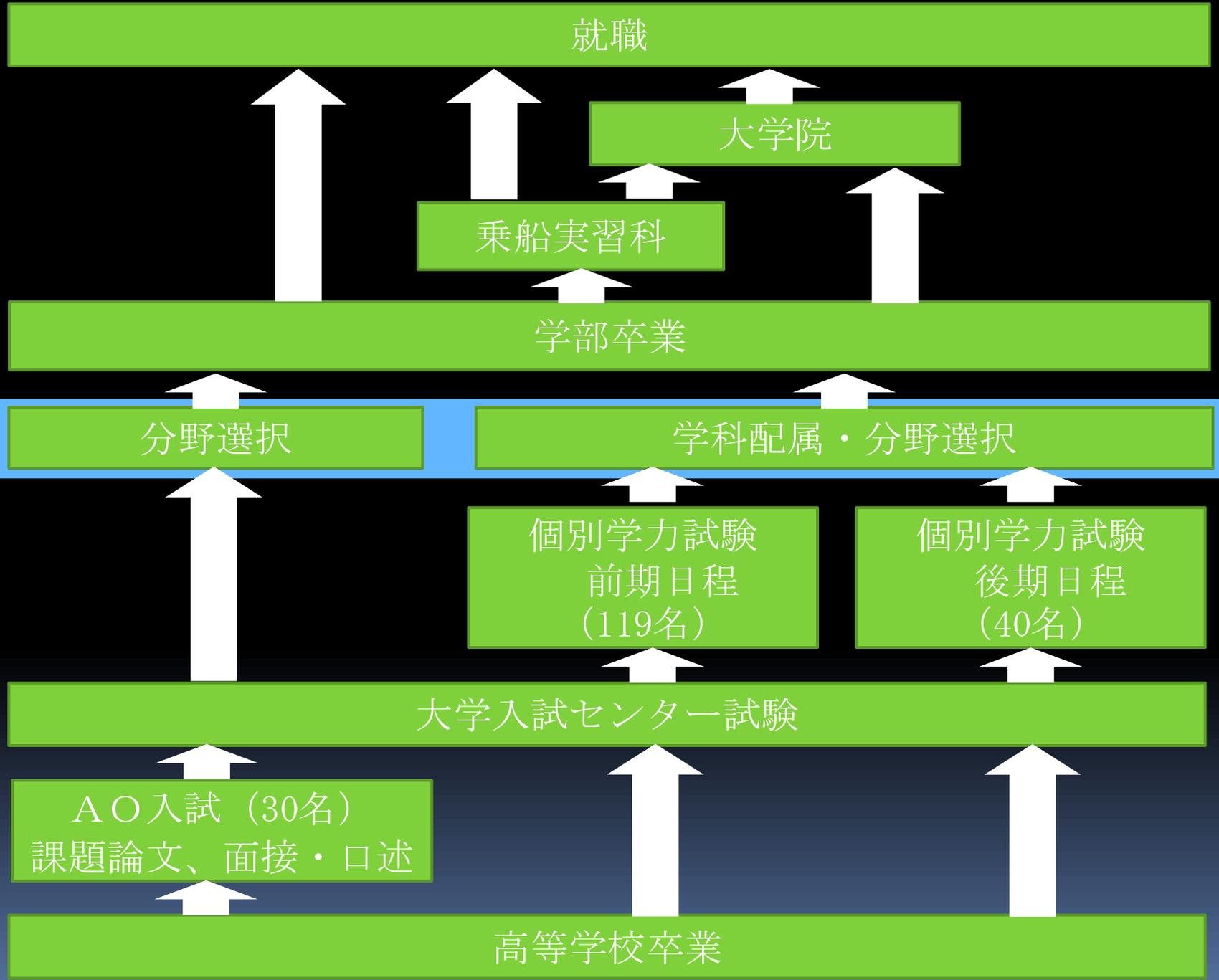
海事技術マネジメント学科 90名

海洋ロジスティクス科学科 50名

マリンエンジニアリング学科 60名

問題点

海事科学部海事技術マネジメント学科の
アドミッションポリシー（求める学生像）
に沿った学生を入学させ、教育し、社会に
輩出しているか？



アンケート調査

調査対象者：

海事技術マネジメント学科の4年生において、特別研究、船舶実習3（航海訓練所による3か月間の乗船実習）を除く卒業に必要な全て単位を満足し、特別研究を行っている学生

対象者数：

航海分野

A0入試：8名

一般入試前期：20名

一般入試後期：8名

機関分野

A0入試：11名

一般入試前期：29名

一般入試後期：5名

回答者数：

航海分野

A0入試：5名（回答率62.5%）

一般入試前期：10名（回答率50.0%）

一般入試後期：6名（回答率75.0%）

機関分野

A0入試：9名（回答率81.8%）

一般入試前期：22名（回答率75.9%）

一般入試後期：4名（回答率80.0%）

調査方法：

アンケート用紙（多肢選択式、自由記述欄有）の設問に回答させる形式において調査を行った。

調査結果

Q 1 海事科学部を受験した理由 (複数回答)

	N			E		
	A	前	後	A	前	後
入学前から航海系の船舶職員の仕事に興味、関心があったから	3	5	0	0	1	0
入学前から機関係の船舶職員の仕事に興味、関心があったから	0	0	0	2	1	0
入学前から海事関連産業の仕事に興味、関心があったから	1	0	3	2	1	1
高校時代の先生に勧められたから	1	4	1	5	6	0
保護者、近親者に勧められたから	0	1	0	0	6	0
国公立の大学を希望していたから	0	3	4	6	13	3
工学系の学部を希望していたから	0	0	2	1	7	0
その他	0	1	0	1	3	0

調査結果

Q 2 卒業後の進路

乗船実習科進学予定者

	N			E		
	A	前	後	A	前	後
船舶職員として就職する	4	3	2	2	8	1
海事関連産業に就職する	0	3	3	0	1	0
一般企業に就職する	0	0	0	0	0	0
大学院海事科学研究科に進学する	0	1	0	0	1	0

学部卒業生

	N			E		
	A	前	後	A	前	後
海事関連産業に就職する	0	0	0	2	1	2
一般企業に就職する	1	3	1	3	8	1
大学院海事科学研究科に進学する	0	0	0	1	3	0
他の研究科または他大学の大学院に進学する	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	0	0

考察

- ・ 志望動機

AO:必ずしも船舶職員希望ではない。

一般:工学系志望者が多い。

- ・ 進路

AO:海事関連産業に就職していない。

一般:海事関連産業に就職している。



- ・ 学科が期待する学生像とのミスマッチ

- ・ 学部在籍中における海・船への気づき

- ・ 入試方法の検討

AO入試の試験方法、内容の検討

一般入試における一括入学の検討

今後の課題

- 平成25年度からの学科改組
- 入口、出口の問題に関する検討
 - AO入試の在り方
 - 一般入試の在り方
 - 学科・コース選択の在り方
 - 就職希望先への動機づけ
 - 就職先との関連性
- 継続的なアンケート調査の実施



ご清聴いただき
ありがとうございました。